

ディレクトフォース会員朝倉昌也が福井県小浜市で行ってきた（株）まちづくり小浜を中心とする実務事例をお話します。今後のディレクトフォースの地域デザイン活動の参考にさせていただけたらと思います。

講演サマリー

0.小浜市のまちづくりに携わったきっかけ

福井県小浜市の緯度は東京とほぼ同じで、福井県南西部若狭湾の中央に位置する人口2万8千人の湊町、城下町です。関西では、奈良東大寺のお水取りの水を送る「お水送りのまち」、京都の食文化を支えてきた「鯖街道起点のまち」で、朝廷に食材を送っていた「御食国（みけつくに）若狭おばま」として知られています。

朝倉は小浜で高校時代までを過ごしましたが、（株）博報堂で全国のまちづくりや施設開発に携わっていた2001年、博報堂業務として「小浜市食のまちづくり計画」を総合プロデュースし、2003年に「御食国若狭おばま食文化館」を作ったのが始まりです。2011年から（株）まちづくり小浜に入り、2012年企画開発室長、2014年取締役、2016年代表取締役副社長、2021年代表取締役会長、2022年相談役となり2023年3月退任するまで小浜市のまちづくりに携わりました。

1.小浜市の紹介（地域資源）

前述のように小浜市は古くから奈良・京都とのかかわりが深く、シルクロードの玄関港、北前船の寄港地、御食国（みけつくに）、鯖街道の起点のまちとして栄えてきました。

2024年春敦賀まで延伸する北陸新幹線では、永平寺、東尋坊、あわら温泉、敦賀気比神宮などへの誘客が期待され、あと10年から20年後といわれる、北陸新幹線全線開通時には小浜への誘客が期待されています。最近では2023年11月ブラタモリの放映など、マスコミでの紹介も増えています。

小浜の癒されるリヤス式海岸風景や穏やかな人情味溢れる人々との交流を求めて、日本人だけでなく外国人観光客も増えてきており、福井県の周辺観光地、丹後の天橋立、伊根や但馬の城崎温泉、いくつかの鯖街道ルートである若狭街道沿線の熊川・朽木、周山街道沿線の美山、今津・大津など琵琶湖周辺と連携した観光・交流の進展も進めています。

2.小浜市 と（株）まちづくり小浜の課題

主要ターゲットは、海水浴ブーム以来のコア顧客である関西のシニア層なのですが、将来的には「若狭ブランド」認知の断絶が起こっている若い世代にも拡大することを目指しています。また関西に訪れる外国人観光客の若狭、小浜への誘客も課題です。これら都市住民や外国人との交流により、古より都とともに日本の食文化を支え、進化してきた小浜の魅力を体験していただき、新たな喜びをお互いに生み出すことを目的としています。

3.（株）まちづくり小浜の戦略

小浜市内を回遊する仕掛けづくりが課題で、道の駅若狭おばまや海の駅エリアを起点として、リヤス式海岸の美しい景観と海の幸が魅力の内外海地区のブルーツーリズム、国宝、重文の神社仏閣が集積する小浜市東部地区のグリーンツーリズムとスピリチュアル体験などの充実提供を進めています。

また、鯖街道ルートを中心に、旅行会社、地域事業者、地域住民と協力したツーリズム開発も進めています。鯖街道ウォーク、サイクリングツアー、Eバイクツアー、京都の料理人と連携した御食国アカデミー、京都大学、立命館大学、同志社大学などの連携、鯖料理専門店サバーや小浜の鯖寿司や海産物名店による都市部への進出など観光、流通開発も推進しています。

4.（株）まちづくり小浜の事業

こういった課題を受けて、（株）まちづくり小浜では地域事業者、地域住民と連携しながら、観光事業、商品開発・販売事業、レストラン事業、宿泊事業を観を進めています。（株）まちづくり小浜は2010年に発足し、2017年観光庁「日本版DMO法人」として第1弾登録、2020年から観光庁「重点支援DMO法人」に選定されています。

講演では、この具体的な事業事例についてもお話します。